

世界青年の日に向けて の教皇メッセージ

ヨハネ・パウロ二世教皇は、今年の「枝の主日」（4月13日）にローマで開かれる第18回ワールド・ユース・デイ（世界青年の日）に向けてメッセージを発表された。その中で、2002年10月6日に宣言された「ロザリオの年」にちなんで『これがあなたの母である』がテーマに選ばれたことに触れた。

2003/03/21

教皇様は、2004年に開かれる第19回ワールド・ユース・デイ（世界青年の日）のテーマは『キリストを見せてください』、2005年にドイツのケルンで開かれる予定の第20回大会のテーマは『礼拝するために来ました』になったことも併せて発表した。

教皇メッセージで次のように述べた。「キリストは、亡くなる前に使徒ヨハネに最も素晴らしい贈り物、つまり聖母マリアを母として与えました。それは贖い主キリストの地上における最後の言葉でしたから、厳かな遺言になりました。(・・・)聖マリアは、お告げの最初の瞬間から神の母でしたが、その独り子イエスの生涯最後の瞬間に、人類の母にもなりました」。

ヨハネ・パウロ二世教皇は、若者に向かって、「一人ぼっちの時、人生で失敗したり落ち込んだりした時、

大人社会や仕事に順応するために困難を感じる時、家族の離散や死別の悲しみにある時、戦争の暴力や罪のない人々の死を経験する時」、聖母に話しかけるならけっして孤独ではないと強調した。ご自分のモットー「すべては、あなたのものです (Totus Tuus)」を引用して若者を励まし、「私の人生には、神の母の優しい心遣いと助けが常にありました」と述べた。

また、キリスト者は常に何処にいてもキリスト者であるようにと、若者を鼓舞した。なぜなら、「キリスト教は単なる意見ではなく、(…)キリストそのものです！キリストご自身であり、生きておられるからです」。続けて、ロザリオを祈り、聖母を通してキリストを知り、キリストを愛するように若者を招いた。

「自分だけがロザリオを祈ることを恥ずかしがらないでください。あなた方が学校に行く途中、大学や職場

に向かう時、街中で、電車の中で、
祈る習慣を身に付けてください。さ
らに、あなたたちの仲間や組織、社
会活動でも祈る習慣が定着するよう
に。家で祈るように勧めることをた
めらってはいけません」。

「イエス様だけが、あなたたちの心
の奥底をご存じです。人類は若者の
証しを、今すぐ必要としています。
世間の流れに逆らい、救い主である
神への信仰を力強く声高らかに宣言
する若者を必要としているので
す」。